東京都青少年問題協議会

第４回若者部会

議事録

日　時：令和６年１０月３０日（水曜日）
午後３時３１分～午後４時５２分
場　所：第一本庁舎３４階北棟３４Ａ会議室

午後３時３１分　開会

〇山本若年支援課長　お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただいまから東京都青少年問題協議会第４回専門部会若者部会を開催いたします。

本専門部会は東京都青少年問題協議会総会の運営規定に準じ、原則公開となっております。議事録につきましても同様の扱いとなりますので、ご承知おきください。

次に資料の確認をいたします。今回の資料につきましては、まず投影されていますでしょうか。

次第と、横にスライドしていただきますと、資料１「困難を抱える若者から意見を聴くための仕組みに対する意見」ということで、これが３枚ございます。その次に資料２といたしまして、「第３回若者部会における意見交換の概要」がございます。これが４枚ございます。続きまして、資料３といたしまして、「若者団体に対する追加ヒアリングについて」、これが７枚ものとなっております。最後に資料４として、「若者部会名簿」の計５点となっております。

皆様、大丈夫ですか。

それでは、このあとの進行は土肥部会長にお願いしたいと存じます。土肥委員、よろしくお願いいたします。

〇土肥部会長　よろしくお願いします。

では、次第に従いまして進行させていただきます。まず、次第の２、事務局の説明に移りたいと思います。

本日は３点ありまして、まずは「困難を抱える若者から意見を聴取していく仕組みに対する意見」について、事務局より説明をお願いいたします。

〇山本若年支援課長　それでは、資料１をご覧ください。

これまで本部会では、障害、若年無業、引きこもり、貧困、若者ケアラー、孤独や孤立などをはじめとした困難な状況に置かれた若者の声、社会的養護経験者など、様々な状況にあって、声が聴かれにくい若者の意見、言語化された意見だけではなくて、様々な形で発する思いや願い、それらを汲み取るような仕組みにつきまして、ご意見をいただいてまいりました。

この資料１につきましては、これまでの皆様のご意見をまとめ、１２月に開催を予定しております拡大専門部会において報告していくための資料となっております。

まず、１枚目をご覧ください。上から様々な若者の声を拾う場所についてでございます。

これにつきましては、まず、聴くテーマによって出向く場所を変える。そのテーマや課題に応じた支援団体が運営する場所でというご意見がございました。

また、このような場所だけではなく、若者の声が集まっている相談窓口の活用や、

支援団体のプラットホームをつくって、そこで意見聴取の協力をお願いするのはどうかといったご意見もございました。

次に、声の聴き方に関しましては、都から若者にアウトリーチして聴きに行く、また、若者と信頼関係ができている支援団体と東京都が連携して聴く、都の職員も同席するようにとの意見もございました。

その下に声を聴くためのスキルといったことにも言及がございまして、支援に携わっている、支援に長けたような人、ある程度きちんと意見を拾えるようなスキルがある人が聴くべきといったご意見がございました。

次のページをご覧いただければと思います。どういった支援団体の協力を得ていくのか、若者の声を聴くための支援団体についてでございます。

課題や困難性、困りごとの種別によって網羅していくことが必要だ、この課題はどこの団体があるのかリサーチや紹介で網羅していくが、そこに対してスーパーバイズがあればいいとのご意見をいただいております。

もちろん聴くだけではなく、フィードバックをいかに充実させるかが重要とのご意見をいただいております。それが「フィードバックの充実」でございます。

また、広報や契約、意見聴取の対価といった具体のご意見もいただいております。都が意見聴取を行っている取組み自体を広報すべき、契約については、進行管理と意見聴取の部分を分けて、パッケージにしてできないかといった意見、対価については実費弁償があってしかるべきだが、対価が発生することに違和感があるとの意見や、意見聴取の場を和ませるため、若者にピザを用意する程度の工夫があってもよいのではないかといったご意見がございました。

次のページをご覧ください。オンラインで広く聴くといったことや、ユーチューバーの活用に対してもご意見をいただきました。

ただ、この手段をいずれも困難を抱える若者から意見を聴く仕組みとしては相応しくないとのご意見でした。それよりも、訪問型にもっと厚みを持たせ、狭く深く拾うべきとのご意見でございました。

以上が若者部会における、困難を抱える若者から意見を聴取していく仕組みに対するご意見のまとめとなります。

この内容で１２月に開催を予定しております拡大専門部会にご報告をさせていただければと存じます。

事務局からは以上でございます。

○土肥部会長　ありがとうございました。

困難を抱える若者から意見を聴取していく仕組みにつきましては、これまで皆さんから様々意見をいただきまして、まとめの資料ということでおまとめいただいたとい

うことになっております。

１２月に拡大専門部会でこの内容で報告をさせていただくということで、皆さんからご意見がなければ、これで締めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

＜「異議なし」との声あり＞

○土肥部会長　では、納得いただいたということで、これを報告させていただきます。ありがとうございます。

では、続きまして、「第３回若者部会における意見交換の概要」について、事務局より説明をお願いいたします。

○栃折計画調整担当課長　政策企画局の栃折です。資料２を説明させていただきます。

次のページをご覧ください。前回の第３回若者部会におきまして、委員の皆様方から、若者団体の代表として、また、一若者という立場で、若者支援に関連した５つのテーマと、２０５０年代の東京の姿に関して、様々な意見を頂戴いたしました。ありがとうございました。

こちらの資料では、いただいた意見の一部について掲載させていただいておりますので、ご紹介させていただきます。

まず、１点目「子育てしやすい東京の実現」に関してですが、保護者の時間的余裕を生み出すための取組が必要といったご意見をいただきました。

次のスライドに移っていただきまして、２点目です。「若者の声を聴き、あらゆる若者の成長を社会全体で応援」に関しましては、成長支援以前に命を守る取組も必要であるという意見や、若者がつながることができる大人が、ライフステージで分断されてしまうといった意見、政策のＰＤＣＡの中で、子供・若者の意見を聴いていく必要がある等のご意見をいただきました。

続いて下段、３点目でございます。「世界に羽ばたく若者育成」に関しましては、若者一人ひとりが成功体験を積み重ねていくことで、驚くような成長を遂げることもあり、活動が継続されるように、行政のサポートが重要であるといったご意見をいただきました。

次のスライドに進んでいただきまして、４点目です。「若者たちがポジティブに働くことができる社会の実現」に関しましては、若者がどのようにキャリアを積んでいけばいいのか、経歴にブランクが生じたときどうしたら就職できるかなどについて明らかにすることが重要であるといったご意見をいただきました。

最後５点目「誰もが自分らしく生きるインクルーシブシティ東京の実現」に関しましては、本人が思いもよらないところで有用感を抱くケースがあり、身近な地域での活動の機会をつくることが重要というような意見や、体験機会が多ければ自己肯定感が上がるといったご意見をいただきました。

次のスライドに移っていただきまして、先ほどの５つのテーマに加えてお聴きしました「２０５０年代の東京」に関してです。

テクノロジーが変化する中、リアルなつながりがさらに見直されるのではないかといった意見や、仕事と家族・家庭という二項対立ではなく、「ポジティブに働く」の先の世界が見えていってほしいといった意見や、義務的なコミュニティではなく緩やかなつながりのコミュニティとなるのではといったご意見をいただきました。

また、その他全体に関する意見といたしまして、若者支援が動き出している実感があり、都としてのメッセージや姿勢が明確になるとよいというようなご意見をいただきました。

こちらは一部のご紹介でございますが、様々な視点から貴重なご意見をいただきました。いただいたご意見につきましては、施策の強化に加えまして、現在行っております新たな戦略の策定にも活用させていただきたいと考えてございます。

説明は以上でございます。

○土肥部会長　ありがとうございました。

第３回の本部会につきましては、５つのテーマについて意見を述べて、そのまとめということになっております。こちらについても拡大専門部会で報告をするということになっておりますが、皆様、この内容でよろしいでしょうか。

ご異議ないということで、これで報告させていただければと思います。

＜「異議なし」との声あり＞

○土肥部会長　ありがとうございます。

それでは、最後に前回の若者部会において、私のほうから事務局に対して本部会のメンバーに限らず、積極的に若者から意見を聴くこともご検討いただきたい旨をお伝えしました。

その後、都におきましては、いくつかの若者団体から意見聴取をしていただいたということですので、その内容について事務局より報告をお願いいたします。

○栃折計画調整担当課長　続いて、資料３について説明させていただきます。

ただいま部会長からご説明がございましたとおり、幅広く若者の意見を聴取するという観点から、若い世代の学びや生活などを支援しております５つの団体の代表の方々等に対しまして、追加でヒアリングを実施いたしました。

今回の部会内で、追加ヒアリング内容についてご説明させていただきまして、最終的に子供・若者計画の改定等につなげていくことを考えてございます。

次のスライドから、いただいた意見の一部について掲載させていただいておりますので、ご紹介させていただきます。

まず、１枚おめくりいただきまして、ボランティア活動の啓発、普及、育成等を通

じて多くの市民へ社会参画の機会を提供しております「おりがみ」さんからの意見についてご紹介させていただきます。

「おりがみ」さんからは、ボランティアの活性化という観点に関しまして、ボランティアが活性化するポイントは、楽しみながら活躍できるかという意見や、ポジティブな活動情報が若者たちに広がっていくとよい、ボランティアはサードプレイス的な役割を果たしているといったご意見をいただいております。

また、下段、団体運営で望むことといたしまして、ＮＰＯの走り出しで人を雇うリスクを取れない、最初のスモールスタートの部分で苦心をしているというような意見でしたり、学生ボランティア団体が苦労するのが信頼性獲得なんだというようなご意見をいただいております。

１枚おめくりいただきまして、次のスライドでございます。こちらはフリースクール、若者の居場所の運営、地域の方々も参加できるイベントや子供支援を行う団体へのコンサルテーションを行っております「だーちゃらぼ」さんの意見でございます。

「だーちゃらぼ」さんからは、まず、居場所についてでございますが、苦しくて助けを求めたときに誰かが助けてくれた経験がないと、二度と人を頼ってくれない、助けを求めたらぴったり合うような支援があるといいというような意見や、子供・若者に関しまして、もっと自分が役に立った実感を得たいと思っている、若者についてはそういう思いがあるというような意見をいただいております。

また、団体運営で望むことといたしまして、ＮＰＯの補助金の対象経費が広がるとありがたいという意見や、区外の支援団体との連携が課題であるというようなご意見をいただいております。

次のスライドに進んでいただきまして、こちらは若者の意見集約や政党・政府に対する政策提言を行っております「日本若者協議会」さんからの意見でございます。

若者協議会さんからは、子供・若者が決定に関与していくことが重要であるというような意見や、議論して提言を出すといった機会が必要などの意見のほか、海外の事例といたしまして、日常的に過ごすコミュニティで自分たちの声が聴かれた経験がないと、大きなことを聴かれてもなかなか意見を言えない、ヨーロッパでは自己決定権を子供の権利の中で最も重視している、子供たちが自分で決定しているから責任を持って進めるし、失敗しても学べる、軌道修正も自分たちでできるといった意見をいただいております。

また、次のスライドに進んでいただきまして、２９歳以下のこれからの日本を支える若者のためのキャリア教育支援を行っております「ユースキャリア教育機構」さんからご意見をいただいております。

ユースキャリア教育機構さんからは、まず、若者の印象についてですが、自分がこ

うしたいと思える、言える子が年々減っている実感があるというような意見や、親の期待に応える間違いない選択を考え、キャリアを描きがちになっている、また、子供のゴールを変えて、個人のゴールを考えられない子が増えているというような意見をいただいております。

また、若者と接する中で思った意見といたしまして、尖った人材が意図的に生まれるような特区、許される制度づくりなどの制度づくりがあるとよいというような意見をいただいております。

次に進んでいただきまして、ゲートキーパーの育成支援を通して、自殺者の減少や孤独の緩和を目指す「Light Ring.」さんからご意見をいただいております。

支え手としての子供たちは、相手の悩みを自分ごとに捉えてしまい、相手の悩みと自分自身を支える上での悩みを二重に抱えているという意見や、支え手が専門家に相談できる機会をつくるなど、支え手の負荷を受け止められる場所があるといいというような意見や、団体運営で望むことといたしまして、他分野との横のつながりができる仕組みがあるとＮＰＯの活性化になるという意見や、広報に協力いただけるとありがたいといった意見をいただいております。

もう１枚おめくりいただきまして、最後のスライドでございますが、こちらも未来の東京についてという観点でご意見をいただいております。

例えば、日常におもしろい体験とか、自分の知らない発見がいっぱい溢れている社会、気づきの機会が日常生活の中に溢れている社会になってほしいという意見や、安心して人と関わり、様々な価値観に触れて、挑戦できて、失敗しても悪くないと思えるような環境が必要という意見、また、将来が明るくないとリスクヘッジをしてしまい、チャレンジしづらくなる、夢を持てる国、何かしら夢が持てる形が必要、コミュニティのような安心できる関係性が保障される未来であってほしい、女性がもっと気軽に起業しやすくなる、企業側も一人にさせない取組があるといいといった意見をいただきました。

以上のとおり、それぞれ、各団体の方々から専門分野に即した意見など、多様な視点に基づくご意見をいただいております。

これらの意見を踏まえ、子供・若者計画の改定に活かしていきたいと考えてございます。

報告は以上でございます。

○土肥部会長　ありがとうございます。

それでは、ただいま報告がありました若者団体に対する追加ヒアリングについて、もしご質問とかご感想がありましたらいただければと思っております。

出ているご意見について、共感する部分でも結構ですし、追加でもっとこういうこ

ともということもあればいただければと思います。

これについては、よろしければお１人ずつということで、荒井先生、お願いいたします。

○荒井委員　最初に確認ですが、追加ヒアリングの追加は分かったんですが、その手前のヒアリングというのはどんなものだったかということと、あと、この団体がピックアップされた理由とかプロセスみたいなもので確認したいと思いました。

○栃折計画調整担当課長　追加の前のヒアリングというと、第３回部会で、この場で皆様方からご意見いただいたというのがヒアリングです。分かりづらくてすみません。

この団体さんを選んだ理由といいますか、なるべくいろいろな分野の方々からご意見をということで、この資料３の１枚目にございますが、皆様方がされている取組とは若干、違う視点で活動されているところなのかなというところで、その中で、かつ代表者の方々が、なるべく若い方といいますか、若者支援をしつつ、若者に近い方という形で選ばせていただいているところです。

○荒井委員　ありがとうございます。

○山本若年支援課長　代表者の方々、２０代、３０代の代表の方ということです。

○荒井委員　本当にいろいろな団体があるんだなあというところと、本当にいろいろな団体から聴くことの大切さがあるなということをすごく感じました。

全体を見て感じるのは、若者の声を拾っていこうというときに、いろいろな団体の協力が必要だなというのが感じたところで、私たちもそうですが、追加だけじゃない、いろいろな団体にも聴いていく必要があるだろうと思いました。

ここで、団体の運営みたいな話も結構出ていて、こういう子供の、若者の声を聴いていく上で必要なのは、この団体の協力というのが浮き彫りになったものの、運営がとても大変で、サポートも本当に少なければ、何とか無理くり活動をやっているという実態があったりするので、

こういう声を拾っていくというのもそうですし、支援を届けていくという意味でも、こういう団体をサポートしていくという体制が大事なのかなというのは、声を聴く中ですごく感じたので、

特に若い人たちのチャレンジも応援していけるといいだろうと思いますし、本当にそうやって声をちゃんと拾っていく姿勢を担保するにも、こういう団体のサポートみたいなのも、合わせて考えていく必要じゃないかなというのを思ったところです。

○土肥部会長　支援というのは、財務的なということかも、

○荒井委員　講演とか広報みたいなところも含めて、つながりづくりとかがあるかと思います。そういった何か包括的に支援することも考えていければと思います。

○土肥部会長　信頼性の獲得がなかなか難しいというご意見がありましたが、

分かりました。ありがとうございます。

ほかの方はいかがでしょうか。

○大橋委員　いろいろな団体にヒアリングしていただいてありがとうございます。

この部会は、特に意見聴取とかというところがテーマだったので、そこについて感じたところになりますが、この中で特に、日本若者協議会さんとかで意見聴取についていろいろご意見をいただいていて、ヒアリングというのが唯一の手段となってしまわないようにいろいろな階層の中で若者の声を取り入れるということをしなきゃいけないと、改めて感じた点です。

また、決定に関与していくみたいな形だとか、若者たちで議論していくだったりとか、そういった若者自身もいろいろな動く力というのがあって、それは別に、いわゆる元気な若者、元気じゃないというとか関係なく、それは私たちのところに通ってくる若者の、いろいろな力があるので、ただ声を聴くというところに注視しないようなあり方というのは、今後ぜひいろいろと考えていきたいと思った次第です。

○土肥部会長　ありがとうございました。

○小奈委員　私自身も不勉強の部分があるんですが、こういった社団法人やＮＰＯ法人の団体があるということを、そもそも余りよく知らなかったので。

ただ、今回、この追加ヒアリングを見ますと、こういった横のつながりといえばいいですかね、そういった部分が希薄になっているという意見を散見されました。なので、こういうふうに思っているのは私だけじゃないのかと考えております。

先ほど、荒井委員から話があったとおり、そういった横のつながりというのは非常に重要と私も考えております。

特にLight Ring.さんが意見を出しております。職員同士の人材出向の促進という話もありましたが、実際に現場に出てみないと、どういった若者がいるとか、若者とひとくくりに言っても、例えば、自殺関連があります。障害を持っています。そういった各々の性格だったりとか、特性に応じて関わり方というのがすごく変わってくるものだということを思っております。

私自身も、この青少年技術援助センターというところにいまして、それこそ、障害者の作業所ですとか、海外にルーツを持つ子供と接したりとか、いろいろな若者と接しておりますが、その特性に応じてどう関わっていくかというのがある程度、完全にそれに寄りすぎてしまってもよくないのですが、そういった前提知識みたいなものがあったほうがいいと考えております。

例えば、Light Ring.さんであれば、私達の寮にそういった自殺関連のある人が入ってきたらどう対応すればいいのかとなったときに、こういった悩みを受け止めるような団体さんに相談ができるとか。そういった仕組みがあれば、より若者の選択肢、あ

るいは可能性といったのがより広がっていくのかなと、これを見て思いました。

なので、もちろん人材出向に限らずですが、そういった横の広がりというのを考えると、より若者の可能性を広げることになるのかと考えた次第です。

○土肥部会長　ありがとうございます。

○與那覇委員　私からは、今回は全４回を通して、ヒアリング、聴いていくということについての検討を行ってきたと思います。

第３回で「将来の東京」についてなどのお話で上がってきたところにもなりますが、ユースキャリアさんにも書かれていましたとおり、現代の若者は、親の期待に応える間違いない選択を取りがちという点がまさにその通りだと思います。成功体験や、自分が役に立つ実感によってそれが改善されるのであれば、今回は聴く側についていろいろ議論を重ねてきましたが、将来的には、若者が自分から意見が言えるような社会になっていくように設定とか、道を検討していくことも大事なのかと思いました。

○土肥部会長　ありがとうございます。

西山委員は何か。

○西山委員　微妙に皆さんの声が聞こえづらいところもあり、かぶっていたら恐縮ですが。

私が感じたところとしては、いろいろな活動されている団体の方々がいらっしゃるんだなあというのは、私の印象としても思ったところで、その対象としている方々も違えば、アプローチの仕方も違って、活動の仕方も違うという方々がいらっしゃるんだなというのを、改めて実感ができましたというところです。

これは、委員もおっしゃったかもしれませんが、全ての対象の若者に対して、広くフォローして、直接アプローチをしていくというのは、かなり難しいところなんだろうなあというのも思うので、そういった、それぞれの団体の活動が継続されるということと、より発展していくような支援みたいなところも必要なんだろうなと感じました。

あと、この日本若者協議会の自己決定権のお話はすごくおもしろいと思っていて、一方的にヒアリングをする、一方的に聴き出すというところも、もちろん必要なアプローチであると同時に、未来の東京についてみたいなところでも語られていましたが、わくわくする明るい社会になってほしいみたいなのが、若者の意見として大きくあるのかなというのを印象として感じて、

そういう未来を若者自身が描くとか、若者自身が対話しながら、やっていくみたいなところを抽出するというのも、一つのやり方としておもしろいのかなというのを感じました。

○土肥部会長　ありがとうございます。

私からもと思うんですが、ほかの委員の皆さんも言っておられるように、本当に多様な団体があるんだなということを、自分自身も実感しておりまして、

ここに上がっているだけでも、いくつか知っている団体もありつつ、半分以上は知らない団体も多かったりとかもして、割といろいろな団体とつながっているつもりでいたんですが、ほかの皆さんもどうどうですか。荒井さんとか。

○荒井委員　半分ぐらいですね。

○土肥部会長　余り知らないと言われましたよね。

そう考えると、意外と井の中の蛙というか、つながっている団体の偏りがあったんだと、私たち自身も実感したところでありまして、

そういう意味では、本当に多様な子供・若者の声を聴くといったときに、東京都内だけで見たときに、もっと組織化された若者団体というのが数多くあるんじゃないかなということも感じますので、それが、前々から出ていますが、ネットワークみたいな形なのか、どういう形か分かりませんが、このすそ野を広げてつながっていくということと、そこから意見聴取をしていくということが、改めて重要なことだなと感じたところだと思います。

それで、若者部会としては、きょうが最後ということになるわけですが、このヒアリングとも眺めながら、若者部会は一体何だったんだろうなということを、自分の中でも振り返りながら、きょうを迎えて。もちろん拡大専門部会などが今後残っていたりしますが、若い世代だけが集まっていくという部会で、どんな議論をしていくかとか、あと、今後こういう部会を継続するかどうかみたいなことも、東京都のほうで考えられるとは思うんですが、その施策のＰＤＣＡを回していくときに、きちんと子供・若者の意見を入れていくということを取り入れていただきたいと思っておりまして、どうしても、その意見反映と考えますと、何となく新規事業をつくっていくときに反映させるとなるんですが、それはある意味で若者のほうも、言いっぱなしになってしまってしまうところもあるんじゃないかと思うと、それが、ちゃんと点検評価のサイクルの中で、若者の意見が入っていくということも合わせて必要なんじゃないかなと考えているところですし、こうした若者団体のネットワーキングであったりだとか、声を集める仕組みをつくるということも、単年度でなかなか形にできるものではないと思いますので、中長期でどういうふうにつくっていくかという計画策定とかも含めて、合わせてご検討いただけるといいのかと思ったところであります。

また、仕事を増やしてしまうかもしれませんが、この会議の中でも全て取り入れることはできなかったけれども、積み残しで検討してもいいんじゃないかというような論点であったりだとか、アイデアというのは結構いろいろ出てきたんじゃないかと思っておりまして、それはぜひ親会のほうも含めて共有させていただけるといいんじゃ

ないかと思っていて、議事録から１個ずつ拾っていくというのは、なかなか大変な作業だったりすると思いますので、もし事務局のご負担でなければですが、本当に多様なアイディアが出てきたところかと思いますので、参考資料程度でそういったこともまとめていただいたほうが、皆さんが出していただいた意見がそのままにならないのかと思いまして、部会長からの提案ということにさせていただければと思います。

一巡したところではあるんですが、もうきょうは最終回ということで、

○山本若年支援課長　総括ということで、これまでのことも含めまして、

○土肥部会長　もし議題にあるわけではないんですが、最終回でもありますので、全体を通じての感想であったりだとか、僕から勝手に若者部会の今後の提案とかさせていただきましたが、今後に対して、ご提案とか雑感とかもいただければと思います。

たまたま、余談ですが、こども家庭庁の会議がきょうの午前中にありまして、支援部会のほうで入っておられる新保先生が、僕の隣の席に座っておられて、「そちらはどうですか」と意見交換をしたんですが、「結構支援部会のほうは会議が長くて大変だ」とおっしゃっていて、「結構、喧々諤々やっておられる」ということでしたが、「こっちは、割とゆるりとなってきたんですよ」という話をさせていただいたところですが、新保先生もこちらの様子を気にしてくださっておりまして、もしかしたら、途中で共有できるタイミングもあってもよかったのかと思ったりもしました。余談ですが。ということで、いかがでしょうか。感想と、今後、若者部会やこの青少協に対して何かご提案やアイディアとかあればということで、どなたからでも結構です。

別に１人１回しか発言してはいけないわけではないので、発言を受けて、もし追加でアイディアが出ればそれでもいいですので、荒井さん、ぜひ。

○荒井委員　今一番気になっているものを話したいと思うんですが、結構若者たちもそうですし、私たちもいろいろな団体も、ヒアリングを受けて、意見は伝えられたなとは思いますし、そう感じています。

ただ、その伝えた意見がその後どうなったのかというのは、すごく気になっていて、若者たちも自分のことを話したり、意見を話して、結局それが何にも反映されなかったら、また次聴いていくというのがすごく難しくなるんだろうなという気がするので、

聴いた意見がどう反映されたかというのが、何かしらの形で、こういうものにつながったとか、そういった形が見えてくると、すごく、また、「じゃ次言っていこう」という形の信頼関係ができてくるのかと思うので、そういう循環をつくっていけるといいのかと思っているところです。

あとは、最近感じていることが、結構若者たちもいろいろな意見があるというのと、自分たちでやりたいみたいな気持ちも本当にあるんだなあというのを、特に困難を抱えている子たちの中でも感じていて、

例えば、私たちの居場所の運営とかをしていると、文句を言うやついっぱいいるんですが、では、「文句言うならやってみればいいじゃん」という形で、意見を言うだけじゃなくて、実際に実行とかまで若者が入っていくことの大切さがすごくあるなということを感じていて、

例えば、こども家庭庁とかにもいろいろな団体から出向なのか形は分からないけれども、入っていったりするのもあるので、例えば、若い人をどこかの部署で迎え入れるとかみたいなこととか、さっきの出向みたいな話がありましたが、人材交流とかもできてもいいのかと思うので、

意見を聴いたあとのプロセスみたいなところを、もっと工夫していくということも、これからもできるのではないかと思って、そういったところもやっていければと思います。

○土肥部会長　このヒアリングのまとめについては、この団体さんにはもちろん共有いただいているということですよね。

○山本若年支援課長　はい。Light Ring.さんが、人材交流というところで、いろいろな、さっきもおっしゃった支援団体があるじゃないですか。その支援団体同士、全く垣根を超えると分からないので、分野が違うと分からないので、そういう交流はできないのかとおっしゃっていたんですが、ＮＰＯ同士の職員で、そんなことはできるんですかね。

○小奈委員　うちの法人では、部署間で、ジョブローテーションというのを、今年度からやり始めまして、先ほど申し上げたとおり、本当に性質の違う部署なので、前までは縦割りでやっていたものを、より支援者のスキル、ひいては若者の可能性を広げるためにやろうねということにはなったんですが、なかなか一つの組織の中でもやるのが結構大変だったというのがあるので、それを、本当に様々な団体さんがやるとなると、なかなか骨が折れる作業なのかなとは思いますが、ぜひやりたいと思います。

○山本若年支援課長　短期間でも交換できないかみたいな話をされていましたが、聞いていて、皆さんは横のつながりを求めてらっしゃるんだなということをすごく感じました。

○土肥部会長　実際問題、つながる余裕があるのかないのかという話も、時間的な問題とかもあったり、支援現場のスタッフさんたち、結構ハードなスケジュールを日々過ごしておられたりして。

○荒井委員　ヒアリングとか、視察とか行けても、そういうツアーと組んで行くだけでも、大分違うかなという気もしていて、そういう視察のツアーとかもあってもいいかなとは思います。それはハードルが低そうな気がします。

○大橋委員　いろいろな横のつながりというのはすごく重要だと思ってます。それは

支援者の観点でもすごく重要ですが、　いろいろな団体の若者が、その職員と一緒に来てくれて、先月、ほかの団体のサッカー好きの若者が、私たちがやっているフットサルに来てくれました。

そのあともずっと継続的に月一でフットサルに来てくれるみたいなところが、そのあと育て上げネットが運営している夜のユースセンターに来てくれるとか、そういうつながりができたりして、

それぞれの支援拠点に通っている若者にしても、また新しいつながりができてというところで、すごく支援としても意味があることなんだろうなとは思います。

あと、さっき人材交流みたいな話があったと思うんですが、私たちのところでも、行政で働いている方々が、その制度を利用しながら、月何時間というのを設けて、うちで働いている方とかがいらっしゃるとか、

あとは、そういった自分たちが、さっき委員からはＮＰＯの方が入ってくるという話がありましたが、その逆も当然常勤じゃなくても、そういった少しずつの人材交流というのができたりすると思うので、

そういう方がいると私たちもすごくありがたくて、とても力になっていただいているのですが、逆にそういう現場を本当に知っていただくということができるのかと思って、そういった取組みをしながら、官民で交流できるといいのかなというのは思いました。

あと、若者の意見反映というところでいくと、これはさっき荒井委員がおっしゃっていましたが、私たちも今、いろいろな文脈で意見を聴かせてほしいという話は、特に最近増えていて、これがどういう意味になるのかとか、そういったところを考えることが増えました。

若者から、「あれどうだったんですか」と聞かれることは余りないのですが、ただ、ある意味、話したあと何がどうなっているか分からなくて、繰り返すということは、余り若者にとってすごくいい影響というわけではないというのは、特に最近そういうのが増えていることから感じます。

その辺は、ぜひフィードバックと、第２回の若者部会のときにお話ししたような、それは別に反映された、されてないというよりは、そのあとどうなったかというところは、ぜひフォローアップいただければありがたいなと、自分も思いました。

○小奈委員　私も余りまとまってはいないんですが、大橋委員が今話していた若者の意見聴取のその後というところで、きょうの若者部会が最後ということで、うちの寮の朝礼のときに各若者に、「話したいことがある？」と聞いてきたんですが、その中の１人に、「でも、聞くだけじゃないの」という子がいまして、「なるほど、分かった。では、俺がそれ都庁に言ってくるから、安心して待っとけ」と言って、きょうこ

こにいるんですが。

まとめると、無力感と言えばいいのか、意見を反映されない自分は、「何か意見を言っても、それがその後何もないんじゃないか」という思い、そういった無力感があるんじゃないかなというのは、そういった現場にいて、肌で感じる部分ではあります。

もちろんフィードバックというよりは、気になったときに、「自分が言った意見はどうなったかな」というのを、例えば、ネットとかで調べみて、「あ、これは実はこうなったんだ」というこの経過が分かれば、より若者の意見反映という部分の東京都さんの方の本気度というのが、すごく若者たちに直接的に伝わるのかと考えております。

○與那覇委員　若者から意見を聴く機会ということで、今後またこのような若者部会のような会議が開かれる際には、学生であったり、当事者であるような方々が、委員として参加していてほしいと期待しております。

○大橋委員　「どういう目的で聴かれるのか」みたいなところはすごく重要だと思っていて、

私たちが今立川市で、子若法に基づく協議会の事務局を立川市と一緒にやっていて、年２回ぐらい、立川市は地域に定時制とか通信制の子がすごく多いので、合同学校相談会というのを実施しているのですが、その２回目が、今度１１月にあって。

そこで、高校生と一緒に企画とかもしているのですが、その中で、来る中学生とか保護者の方々に「自分たちの経験とかそういうのを伝えたいね」という話をして、いつも合同学校相談会で配っている各学校を紹介する冊子に、高校生のページをつくろうという話になりました。

今、その制作のチームと一緒にいろいろ話しているのですが、制作のチームが人数が足りなくて、「自分たちの意見だけだと偏りがあるから、いろいろなほかの高校生から聴こう」という話をして、今アンケートをとっています。

これは、大人がやると、そのアンケート集めるのとか、学校の先生とかの協力とかも含めて大変で、自分もどれくらい集まるかと思ったのですが、実際、蓋を開けてみて、学校の先生たちにもご協力を依頼したのですが、そしたらアンケートも６問ぐらいで、「どうやって自分が進路を選んだか」みたいないろいろな項目があるのですが、今１５０人ぐらいアンケートに本当に答えてくれていて、

それは大人が聴いているからよりは、「中学生の後輩のために自分たちの経験をシェアしてほしい」というような伝え方をして、本当にめちゃくちゃ本音で書いてくれたと思うので、

何のためにやっているのかが重要だと思いました。さっきヒアリングの中でも「役に立ちたいと若者は思っている」みたいな話もあったと思うのですが、その辺はしっ

かり真摯に若者に伝えた上で一緒につくっていくというのが、すごく大事なんだろうと思います。
○土肥部会長　西山さんはいかがですか。
○西山委員　全体を通してみたいな流れで大丈夫ですか。
　今後、団体同士の交流みたいなところも、ちらっとさっき話が出ていましたが、ぜひやっていきたいなと改めて思っております。
　今回、この若者部会の中で用意していただいた議題だったりとかというところは、都の施策としてつくっていくというところで終わるのではなくて、問い続けて、活動し続けなきゃいけないところなんだろうなあというのはすごく感じていて、それは、都がやるというだけじゃなくて、団体同士で連携し合いながらやっていけるところはきっとあるんだろうと思っています。
　なので、交流じゃないですが、最初のほうに団体同士のつながりの場、サミット的なみたいな話も出ていたような気がするんですが、そういったものを実現できるとすごくいいんだろうなと。
　施策というところだけじゃなくて、実際のそれぞれの活動だったりとか、連携するからこそできるところみたいなところを、一緒に模索していくというような関係性をつくっていけるといいなと、私自身は思っています。
　あとは、すごくいい形でまとめてくださっているなと、これまでの議論で思っているんですが、改めて私から強調しておきたいと最後に思うところは、多摩市若者会議として来ているわけですが、多摩市だったり、多摩地域だったりとか、多摩地域に限らず、島のほうにいる若者たちだったりとか、そういった形で地域による格差じゃないですが、そういったものが生まれない形で施策ができていていくといいなと、改めて思っております。
　というところを、最後に強調しておければ思っています。
○土肥部会長　東京都も非常に広いということで、地域性とか地域差も出ないようにという言葉がありました。
　あとは、全体的に割と提案的なものが多かったんですが、普通に雑多に、「この会どうでしたか」みたいな感じで、事務局の皆さんの感想も伺いしたいところかと思いますが、よろしければ。
○山本課長　私、若年支援課長なのでなおさらだと思うのですが、「このことについて若い人たちの意見を聴きたいな、どう思ってらっしゃるんだろうな」と、当事者の意見を聴きたいというのがすごくあって、それがこういう若者部会があると、直接関係ないけれども、私、聴いたりしているじゃないですか。非常に勉強になったと思っております。日本若者協議会の代表の方がおっしゃっていたのですが、海外だとそう

いう団体の方々のスペースがあって。
○栃折計画調整担当課長　建物があって、聴きに行けばいいという話もありましたね。
○山本若者支援課長　だから、そこに聴きに行けばいいというようなこともおっしゃっていましたが、こういう非常に部会というのはありがたい存在だったと思っております。
○上野政策企画局計画調整担当　私、３３歳なのでギリギリ若者に入れてもらえるのではと思うんですが、（笑）
　団体の皆様のヒアリングにも行かせていただいて、代表の皆様はほとんど私と同世代なので、話を聴いていて、「なんで自分がこうなれなかったのかな」とかと、帰り道に大体そう思って帰ってくるのですが、でも、一人ひとりの人生があって一人ひとりの価値観があって、いろいろな課題にそれぞれ向き合っているんだと思いましたし、これとは全然別の場面で、私、最近大学生といろいろ考えたりする機会とかもありまして、若者の方々がそれぞれのバックグラウンドとか、日常の活動の中で感じられることがあるのだと感じましたので、お話を伺って、しかもそれがどう反映されるかというのを、形にしていくことが重要なんだなと改めて感じさせていただく、いい機会となりました。
　ありがとうございました。
○栃折計画調整担当課長　私からも。
　私は若者部会が始まった頃は、ギリギリ３０代だったんですが、４０になってしまったので、もう完全に若者でなくなったんですが、（笑）皆さんの話を聴いていて思ったのが、前、ある部署にいたときに、上司によく言われたのが、「現場を見たのか」という言葉をよく言われまして、現場を見ないと、分からないことが多々あると。
　皆さんの話を聴いていると、普段から若者に接して、実際に支援を行っているということで、お話しされている内容が非常に重い、本当に伝わって来る重要性といいますか、深刻性といいますか、そういうところが伝わってくるなというところを感じました。
　ぜひとも皆さんの意見をうまく施策のほうに反映していきたいなという思いと、一度どこか、現場を見させていただきたいなという思いもあるので、どこかご相談させていただけると、と思っております。
　引き続きよろしくお願いいたします。ありがとうございました。
○事務局職員　私からも。本当にありがとうございました。
　私は、年齢的にはもうかなりいってしまっているので、実際、若者の方がどう考えているのか、ヒアリングで知ることができてよかったです。この前、大橋さんからもヒアリングに同席したほうがいいと言っていただきましたし、Ｔシャツ姿で臨みまし

たが、団体の方からは「誰ですか」と言われました（笑）

若者からヒアリングでご意見等を聴かせていただいて、団体さんによって支援している方の層が違っていたりだとか、あと、同じ団体でも５人ぐらい聴くと、５人とも色が全然違うんですよね。

総じて感じたのは、１８から２０代前半ぐらい、３０くらいまでの方々は、いじめだとか、家庭の問題、ケアラーもそうですが、子供のときに抱えられていた困難をなかなか解決できないまま１８歳を超えていて、自立していく場面で、いろいろな困難に、小さい壁でもぶち当たってしまう。

そこで、団体さんが同じ目線で寄り添っていただけるということに、非常に若者の皆さんが安心しているというようなところを感じました。また、困難さの度合いというのは非常に高いということも、直接聴いて感じたところです。

きょうも、皆さんからも改めて、フィードバックの重要性ということをお聞きしましたが、言ったことの無力感、これは選挙とかにもつながってくるところだと思うんですが、それは非常に大事なポイントだと私も感じています。

私は実務でやっている立場でございますが、この機会に、皆様とご縁ができましたので、部会が終わっても、困ったとき、またいろいろお知恵を拝借、ご相談などをさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

〇村上若年支援担当部長　私は、この若者施策をやるときに、行政がどこまで関わって何ができるのかなと正直思ったんですよ。

最近、この若者というのは、ヤングケアラー問題も都議会でも五、六年前に取り上げられたり、最近は巷でも「若者の意見が必要」とあって、それをどうやっていくのかなと思っていたんですね。

この前の選挙でも、投票率が史上３番目の低さということで、「自分で選挙で変えていこう」というのがないのが、まさに本当に無力と感じていて、「自分の意見が本当に反映されるのか」というところと同意かなということを思っていて、それをどうやって掘り起こすのかなと思っていたんですよ。

今のこのヒアリングとかやると、行政分野にかかわらず、現場の声を聴くといろいろ出てくるなというか、いろいろやれることはまだあるなあというところに、実感を感じたところです。

今度は、東京都のほうの宿題になって、それをどうやって施策に反映していくかというところが、重い宿題ですが、そこを取り組んでいかなきゃいけないのかなと思った次第です。

〇土肥部会長　確かに。最後に。

〇竹迫安全担当局長　ありがとうございました。

最初のときに申し上げさせていただいたように、私自身も子供と話して、なかなか視点が違うなあということは感じていて、皆さんの話を聴いていて、非常にいろいろな視点からご意見いただけてよかったと思っています。

私が就職をしたのが平成５年ということですから、１９９３年ですが、この中には生まれておられなかった人もいるのかと思いますが、その頃は、何となく「人生というのはこういうもんだ」みたいな、「高校行って、大学行って、就職して、結婚して」みたいな、そういう既定路線が、ある意味、残っていた最後の時代なのかと思っています。

そういう既定路線の中の不自由さというものが、私自身、３０年以上前になりますが、感じていて、その中で反抗したこともありましたが、

今の若者、皆さんとかを見ていると、非常にいろいろな意見を持っていて、逆にうらやましいなあと思うところがあります。多様性の時代ということもありまして、いろんな選択肢というものが非常に多く用意されていて羨ましいと。

ただ、既定路線がない分、その選択にそれぞれ責任を持たなきゃいけないので、ある意味大変な時代になっているのかと思っていて、

昔は、「こういうことやりたい」と言っても、そもそもやらせてもらえなかったから、逆に既定路線の中で、余り外れず、転げ落ちずということがあったと思うんですが、皆さんの時代になると、そういうところがなくなって、ある意味、自由に生きれる反面、転げ落ちてしまう人というか、一時的にですが、それをいかに行政のほうで支えていくかということが、必要になってくるのかと思っています。

ただ、古いおじさんの頭から言わせてもらうと、自分で選んだということも、若者としても考えていただきたいなというのがあって、自分の選択によっていろいろな結果というのが出てくるので、どこまでを行政としてサポートすべきなのか、そこから先は一歩踏み出す前に、決定的に転げ落ちないように考えていただけるような情報提供をして、ただ、転げ落ちたときにはきちんとサポートできるといった情報発信を、もっと我々やっていかなきゃいけないのかと思いました。

○土肥部会長　では、委員の皆さんから一言ずつ。

○與那覇委員　私は、地方公共団体、行政職員として参加いたしましたので、ほかの委員の方々とは違い、どちらかというと学びになるようなことが多くて、本当に参加できてよかったなと思っております。

どちらかというと、支援している団体を支援する側というような形で、皆さんと違う視点だったかなと思いますが、私も一若者として、意見が言えて本当によかったと思います。

ありがとうございました。

○荒井委員　本当にいろいろな若者の意見が聴けて、こうやって伝えられてよかったと思いました。

さっきの皆さんの話を聞いていて、役所というのはどうしても無機質な感じがするんですが、でも、皆さん一人一人のいろいろな思いに触れていくと、「意見言ってよかったな」とか、「次も行きたいな」とかいうふうに思うので、

皆さんのそういう思いみたいなものも、若者の意見を聴くだけじゃなくて、伝えていく、伝わっていくことが、結構大事なのかなというのは思ったので、ヒアリングした若者たちも触れられたらもっとよかったんじゃないかなと思いました。

もう一つ、全体を通して、次の改善かと思ったんですが、意見を聴きやすい子とか、聴きやすい団体ばかりヒアリングしていてもいけないんだろうと思っていて、特に私たちの活動では、困難を抱える若者だと、ちゃんと意見する若者もいれば、言葉にならず、それこそ問題行動とかに出てしまう若者もいて、

問題行動とかも一つの意見の表明だったりすると思うので、そういったものをどうやって受け止めていくかというのも、また一つポイントとしては、

特に困難を抱える若者とかいうと、そこは特に大事なのかと思うので、そういう意見を聴きにくそうな子たちとか、そういう問題行動の背景にある、声にならない声みたいなものを、次にもっとどう拾っていくかというところが、次につなげていけたらいいのかなと思いましたので、そういったところを、次より一層できたらいいんじゃないかと思いました。

○大橋委員　いろいろな若者がいるなと改めて、きょうのヒアリングの結果もそうですが、自分たちも一つの支援団体ではなかなか見えない部分というのがあるので、いろいろさらに知っていかなければいけないなとすごく感じた次第です。

あと、荒井委員からも、意見を言いにくい子もいるみたいな話も今あったと思うのですが、意見を持っている、持ってないとかという話ではなく、基本的に意見というのは、それぞれいろいろな思いを持っていて、

その中には当然、明日生きるか死ぬかみたいな若者ですら、それは別にそこがないというわけじゃ全くなくて、だからこそ、普段から接する若者がどういう意見を持っているかとか、どう思いを持っているかというのを考えるのが、すごく重要なんだろうなとは感じました。

この若者部会の中でも、例えば、「行政の窓口に来るような若者からも、何か意見とか聴けるんじゃないか」みたいな話も上がっていたと思うんですが、日頃からそういう視点を持つみたいなことが重要だろうなというのは感じていて、

逆に私たちも、普段そういうような支援の中では余り聴かないようなことも、東京都の職員の方が来ていただいて聴くと、そこでいろいろな若者も話すとか、お客さん

が来るといろいろなことを話して、自分たちも「そんなこと思っていたんだ」というようなこともあるので、そういった視点を常に忘れずに、日頃の業務に関わりたいなと改めて思いました。

○小奈委員　自分は青少年自立援助センターというところに入社して４年半になるんですが、そのほとんどを若者と関わるだけで過ごしてきたので、こういった提言や意見を言う場というのに参加するのは本当に初めてで、本当に貴重な場をいただけたなと感謝しております。

その弊害もありまして、言葉遣いが不相応であったりとか、意見がなかなかうまく言えないとか、そういった部分もあったかもしれませんが、ご容赦いただければと思います。

本当に今回こういった場を設けていただいたことで、様々な団体さんを知ることができましたし、また、ほかの団体の取組みとか、自分たちが関わっている若者というのは、結構重度の人が多いので、そういった若者以外の若者という人たちが、どういった視点で物事を考えているんだなということを、改めて知り得たいい機会だと考えております。

先ほど、荒井委員から「問題行動を起こす若者」という話が出たと思うんですが、まさに問題行動を起こしたときこそ、自分は重要だと考えておりまして、普段関わっている場でそういう本音というのはなかなか出ないんですよね。

逆にそういった何か、自分の中で葛藤とかいらつきとかいうのがあってから、自分の本音がやっとポロっと出るといったことが結構多いので、自分は、そういった問題行動があったときこそ、そういった若者と本音でしっかり向き合って話すということを意識して仕事をしております。

問題行動を起こす若者に、「じゃ、東京都の職員の方は喧嘩すればいいのか」という話ではないと思うので、そこはやり方はいろいろあると思うんですが、様々な若者の意見を今後とも取り入れてもらえれば、現場としても非常にうれしいと考えております。

○土肥部会長　西山さんもぜひお願いします。

○西山委員　私は、この若者部会に若者当事者として参加させていただいたというところだと思うんですが、実際、いろいろな問いかけに対して、自由に発言させてもらって、職員の皆さんがすごく真摯にそれを受け止めて、しっかりと直接フィードバックをしていただけるという、すごくいい機会に会ったなと改めて思いました。

実際、自分自身がそういう立場にあると、きちんとフィードバックしてもらえるのはすごく嬉しいし、安心して任せられるなみたいな感じになるんだなあというのを、自分自身が体験してすごく感じたと思っています。

なので、私たちだけではなくて、今後いろいろな子供たち、若者たちがそういうふうに感じてもらえると、すごくいいと思いますし、きょうは、私、オンラインですが、コの字型の会議室は何とも重々しい感じがするなあというのを、改めて感じたりもするので、（笑）

空間づくりみたいなところもきっと役に立つところがあるんじゃないかなとは思っています。

総じてすごく本当に真摯に受け止めてくださって、フィードバックをくださるということをすごく大切で、すごく嬉しい機会なんだなと感じることができました。

ありがとうございました。

○土肥部会長　ありがとうございます。

荒井さんが、初回の会議のときに、「この会議室から出て、公園でやったほうがいいんじゃないですか」みたいな話をされて、都の職員の方たちがどうしようという話もありました。（笑）

そういうことも含めて、既存の枠組みを変えていくということも、もしかしたら必要なのかもしれませんが。

自分からも最後に感想ということでお話しできればと思うんですが、本当に今、国と、都道府県レベルだと今、東京都と静岡県と関わらせていただいていて、自治体はたくさん入っているんですが。

この東京都の機動力というのは、本当にすごいことなんだなというのは、それぞれ参加していて感じるところでして、

それこそ若者というところを切り出して、専門的に議論する会議を持っておられるというのは、正直、今全国的に見ても東京都ぐらいしかできてないんじゃないかなとも感じていて、

もちろん、区レベルではやろうとしておられるところはあると思いますが、まだまだ、子供と若者の両方で議論しているところのほうが多いと思うので、「若者だけ切り出して議論をしたい」と、最初伺ったときに、さすが東京都だと思ったところでもありますし、

これは、なかなかほかの自治体で余裕がないというのもあるかもしれませんが、ぜひ東京都から、このことは外にＰＲをしていってほしいなと思ったところです。

いろいろな審議会に出るんですが、この会議が一番審議ができたなあという感触も持っています。

というのは、きょうも午前中に会議に出ていますと、１６～１７人の委員の皆さんがいらっしゃって、１人１回の発言にどれだけ魂を込めた一言を言うかみたいなことに、時間が結構かけられていて、それは、実は国だけではなくて、自治体でもそうで、

ほとんどの自治体が、そういうのが審議会だという、ステレオタイプなところなのか分からないですが、そういうふうになっていて。

今回、少人数でかなりみっちりと議論をさせていただいて、審議会のいいところ、本来やらなければいけない審議することに時間を使えるというのがいいところじゃないかと思っていて、

委員の皆さん同士でも意見が違ったりもするので、それを本当に膝をつき詰め合わせて、どういうふうにするかということが議論できた場だったと思っておりまして、こういう会議がもっと増えるといいなと、個人的には思いましたし、

それをちゃんと事務局の皆さんが受け止めて、施策に反映してくださろうとしている姿も、本当にありがたかったと思っていて、ここで部会長をさせていただいて本当によかったと思っております。

本当にありがとうございます。

まだ、拡大専門部会とか総会とかありますので、これでお別れということはないんですが、引き続きと思います。

ということで、若者団体に対する追加ヒアリングという議題でありましたが、これについても、拡大専門部会のほうでご報告をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

もういいですね。早めにしまって。

○山本若年支援課長　はい、大丈夫です。

○土肥部会長　では、事務局からご連絡についてお願いいたします。

○山本若年支援課長　次回につきましては、若年支援部会の委員の方々、また、都議会議員の方々もいらっしゃいます。それを含めた拡大専門部会を１２月に予定しておりまして、その拡大専門部会におきまして、両部会の議論を取りまとめていく予定でございます。

日程につきましては、決まり次第、開催日程をご連絡したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○土肥部会長　では、本日をもちまして第３４期東京都青少年問題協議会の若者部会は終了ということにさせていただければと思います。

本当にありがとうございました。

○一同　ありがとうございました。

午後４時５２分　閉会